



# 中島公園

Nakajima Park MAP & GUIDE



お問合せ先

(公財)札幌市公園緑化協会 中島公園管理事務所

TEL:011-511-3924

FAX:011-511-0437

E-mail:nakajima\_park@sapporo-park.or.jp

<http://www.sapporo-park.or.jp/nakajima/>

# 中島公園三十三選とは

中島公園は札幌の都心に位置する水と緑あふれる公園です。札幌の歴史とともに歩み、歴史の変遷とともに、公園もその姿や役割も変わってきました。そんな中島公園を取り囲む周辺も含めて、これまで見過ごされてしまいがちだった様々な資産を掘り起し、その魅力を伝えることにより、中島公園地域の存在価値を高められたら、との思いから、公園内外の魅力的な資産を三十三に厳選し、紹介することとしました。ぜひ、この三十三選を巡り歩きながら、中島公園地域を広く深く識っていただき、より一層愛着を持っていただけたらと思います。



## 凡例 key

- ♿ トイレ ♿ 身障者トイレ ☕ 水飲み場 ⌚ 時計
- ☎ 公衆電話 🍽️ レストラン 🏪 売店 ⓘ 案内板
- 🚗 駐輪場 🚌 バス停 🚏 交番 🚇 地下鉄駅

- 建造物・施設 ■ 自然資源 ■ 造園的資産
- 植物 ■ 神社・仏閣 ■ 歴史的資産
- 彫刻・碑像・モニュメント

- |                |                      |                 |
|----------------|----------------------|-----------------|
| 1 イチョウ並木       | 12 彌彦(伊夜日子)神社        | 23 豊平館          |
| 2 木下弥八郎顕彰碑     | 13 鴨々川               | 24 日本庭園         |
| 3 のびゆく子等       | 14 札幌護国神社            | 25 シダレザクラ(枝垂桜)  |
| 4 札幌パークホテルの庭園  | 15 行啓通               | 26 八窓庵          |
| 5 ハウチワカエダ「舞孔雀」 | 16 エゾヤナギ(公園一の老木)     | 27 菖蒲池(元右衛門堀跡地) |
| 6 木下成太郎像       | 17 白鶴橋               | 28 フジ           |
| 7 山内壮夫彫刻群      | 18 不老の松の碑            | 29 四翁表功碑        |
| 8 北海道立文学館      | 19 札幌コンサートホールKitara  | 30 人形劇場こぐま座     |
| 9 自由広場         | 20 相響                | 31 中島児童会館       |
| 10 ケヤキ(公園一の太木) | 21 天文台(岡田山)          | 32 森の歌          |
| 11 風景の夢        | 22 シダレウリユウヤナギ(枝垂雲龍柳) | 33 水天宮          |

中島公園は、その名前の通り、豊平川の流れによって生まれた地形が、その由来になっています。鴨々川と本流に挟まれた地域を、明治の初めには鴨々中島と呼び、本流の対岸のなりのしほ中島(のちの中の島)と区別されていました。当時は、上流から流送される木材を溜めておく貯木池があり、施工に当たった人物の名を取って、元右衛門堀と呼ばれていました。



元右衛門堀 (写真集「北大百年」北海道大学より)

島判官の後を受けて、札幌の街づくりを推し進めた岩村判官は、北に偕楽園、南に中島、西に円山、東に苗穂の公園配置計画を持っていたといわれ、当初から公園予定地に模されていたようです。

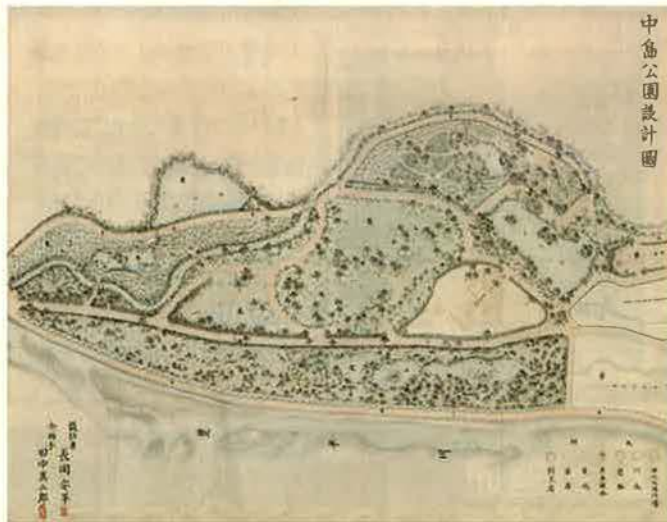
1887(明治20)年に中島遊園地として整備され、古くから札幌の娯楽の中心となりました。この年、偕楽園の北にあった競馬場が移設されて、すぐに札幌競馬が開催されると共に、北海道博物陳列場も建設されています。それまで大通で行っていた物産共進会がだんだん手狭になり、常設展示を行う施設の要望が高まったことを受けて建設されたものですが、これが後の博覧会へと繋がっていくことになりました。

1889(明治22)年には、岡田花園という花を楽しめる料亭ができました。またこの頃、公園内には、大中亭や日吉亭、臨池亭など5つの料亭ができ、ちょっと高級な娯楽を楽しむ場になっていたようです。池には魚が放流され、貸しボートが始まったほか、花火大会が始まるなど、庶民の娯楽の場としても賑わいの空間になっていきます。

# 中島公園の歴史

## Nakajima Park History

1905(明治38)年日露戦争の勝利ののち、札幌区勢もますます伸長したことを受け、東京府技師の長岡安平に対して中島公園と円山公園の整備計画を依頼しました。当時の対象面積は61haもありましたが、戦後縮小され、今では24haとなっています。この設計を元に整備が行われ、1910(明治43)年にそれまでの中島遊園地から、中島公園へと改称されました。



長岡の設計図 (札幌市みどりの推進部 所蔵)

1918(大正7)年には、開道50年記念北海道博覧会が開かれ、農業館や野外音楽堂などのパビリオンが整備されています。観覧者総数は142万人にも及び、道外からもたくさんの人々が集まっています。この開催に合わせて、それまでの馬鉄が電車化され、中島公園まで路線が延びたことから、ますます市民の利用の便がよくなりました。



開道五十年記念北海道博覧会第一会場全圖 (弥永北海道博物館)

1937(昭和12)年には、第5回冬季オリンピック(1940年)の開催が決定し、中島公園での競技場の建設が始まりましたが、日中戦争の影響により開催権を返上しています。

終戦を迎え、落ち着きを取り戻すとともに、1958(昭和33)年には北海道大博覧会が開催されました。この博覧会に合わせ、「子供の国」が整備され、その後の公園の顔になります。また、豊平館が移設され博覧会でお披露目されました。

中島公園では、大相撲札幌場所やプロレス、サーカス、コンサートなどの興行が中島スポーツセンターで行われ、中島球場における様々な野球大会、中島プール、百花園など、多くの市民でにぎわいましたが、札幌の街の拡大とともに、新しい施設が各地に整備されるにつれ、その役割を終えていきました。

公園内には、多くの彫像や碑がありますが、中でも佐藤忠良、本郷新と並び北海道の代表的彫刻家である山内壯夫の作品が5つ設置されています。この彫像は、1959(昭和34)年に、北海道大博覧会の成功を記念して製作されたもので、公園が再整備された今も大切に守られています。

公園の再整備では、北海道文学館やコンサートホール Kitaraが整備されるなど、今では札幌の文化シーンに欠かせない場として定着しています。